

	生徒の現状と課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果から、学習に前向きに意欲をもって取り組んでいる生徒が多くいることがわかる。しかし、全国学力調査では、言葉の特徴や使い方に関する事項や我が国の言語文化に関する事項の正答率が低い。 ・「書く」ことに関する設問も、都や全国と比較して正答率が低いので、自分の意見や考えを整理し、文章で表現する力を付けさせることも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書き取りや言語文化に関する知識を身に付ける授業を増やし、基礎的な知識の定着を図る。週1回の漢字テストやeライブラリを活用し、反復練習を行うことで定着を図る。 ・「書く」学習については、生徒の表現を促すワークシートを工夫する。特に、苦手な生徒には、何についてどのように書くのか、書く手立てを示し、段階的に、個別に指導をする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートでは、8割を超える生徒が授業内容に興味をもって取り組み、生徒同士の学び合い活動を通して、楽しく学ぶことができている生徒が多い。しかし授業内容と将来の生活に繋がりが見出せないという意見もあった。オンラインでの授業ワークシートの作成を行っていることに、基礎的な知識の定着に不安を感じ、紙媒体を希望する生徒が一定数いる。このことから、実生活との繋がりをさらに意識した学習課題の設定やタブレットPC活用の有用性を伝える指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を通して、地理・歴史・公民の各分野での社会的な見方・考え方を身に付けることが、将来の実生活において応用できることを繰り返し伝えていく。各単元において、自ら疑問点を発見して探求できるような資料を提示する。 ・基礎的な知識の定着を目指し、eライブラリを朝学習や授業内で活用し、定期考査にて定着状況を確認する。 ・オンラインと紙媒体を選択できるようにし、毎授業の振り返りをオンライン上で提出することで、生徒にとって効率的な学習活動を実践する。各生徒の学習の取り組み状況や授業での振り返りを速やかに確認することで、単元計画の作成に活用する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートでは、9割を超える生徒が授業に意欲的に取り組んでいることがわかった。しかし、授業内容から日々の生活のつながりが見いだせないという意見があった。全国学力学習状況調査では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する設問に対し、無解答率が3割を超えていた。題意を正しく理解できず、手つかずであったことが考えられる。読解力向上のための指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を日常生活と関連付けて生徒が理解できるように、タブレットPCを活用した調べ学習を増やす。また、授業の導入で扱う具体的事例を生徒の実態に合うように選ぶ。 ・文章の読み取りを中心とする情報処理の課題を増やし、文章題に触れる機会を増やす。また、数学用語をより丁寧に説明し、設問文から題意を正しく読み取る力の向上を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりも授業の課題について、提出率は向上した。一方で、学習内容を理解し、適切な表現を用いて説明することができない生徒がいる。具体的には、なぜそうなるのかを考え記入をする提出プリントで、インターネットを使って調べ、見つけた情報をそのまま貼り付けて終わりにしてしまう生徒がいる。その結果、課題からずれた内容になってしまったり、本人が理解しないまま提出物を完成させてしまったりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に課題について考え話し合っって答えを導き出す時間をとる。このとき、まずはタブレットPCを使わないで考えることを指示する。そこで、ある程度考えを出させたうえで、必要であればタブレットPCを使って補足をするという方法を定着させていく。また、このような課題を出すときに、自分で考えることが大切であるということを指示するようにする。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートによると、9割以上が歌唱に対し、前向きに取り組んでいる。表現の工夫などさらに深めた授業に取り組ませたい。聴き取ったことや感じ取ったことを書く力は不十分であったり、時間がかかったりする様子がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターを使用した動画投影は継続して活用し、今やっていることを明確にし、表現や鑑賞に集中し、深められる環境にする。 ・聴き取ったことや感じ取ったことを言語化しやすいよう、フィードバックを行い、音楽に関する語彙を増やし、書きやすいようにする。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・学期を通じて集中して取り組み、水墨画の技法を理解・習得させることができた。作品制作に向けたワークシートに時間をかけすぎるなど、計画的な取り組みとならない生徒が見受けられた。 ・板書と動画投影で説明していたが、一度の動画では作業を理解できない生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期は立体制作を題材とするため、技能の差が生じやすいと想定される。工程ごとの締め切りの設定、必要に応じて補習などを実施する。 ・計画的な授業進行のため、ワークシートを一部宿題にし、制作や学び合いの時間を確保する。 ・プロジェクターを使用した動画投影に加え、classroom で配信して生徒が各自でいつでも見られるようにする。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に参加し、話し合い活動やグループワーク等は協力して取り組んでいる。フォーム改善やタイムの更新に向けてタブレットPCを活用することで、熱心に練習に参加できていた。 ・授業評価アンケートでは、運動が苦手な生徒が前向きに取り組めていないことや、球技やゲーム形式の授業を受けたいという意見も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きタブレットPCの活用や授業内容を工夫することで、生徒の意欲が高まる授業にしていく。また、個別のアプローチができる時間を増やし、運動が苦手な生徒でも前向きに授業に取り組めるようにする。 ・2学期は球技の授業が多くゲーム形式の内容が増えるので、個人技能を高めながらチームの活動を通して達成感を味わえるように工夫する。
技術・家庭	<p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に取り組む生徒が多いが、忘れ物が多い時期もあった。提出物の提出や内容が2年次に比べて改善した。授業評価アンケートからは、もっと自分で活動したり製作したりする時間が欲しいなどが挙がった。製作の時間や自分で考えたり活動したりする時間の確保が課題である。 <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作の授業の中で、こちらから呼びかけてはいるものの、生徒が残りの授業数を把握しておらず、見通しをもって計画的に製作を進めていくことが課題である。 ・授業評価アンケートの結果から、発表や話し合い活動にもっと取り組みたいという生徒が多く見受けられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCを活用して、話し合い活動、意見を共有する時間、調べ学習、学び合いの学習活動を取り入れていく。制作活動の時間を多く確保するために、作業内容や板書をパワーポイントで行う。製作物の振り返りの時間や生活との関わりを考える時間をとることで、学習内容の定着を図る。 ・生徒が見通しをもつことができるよう、残りの製作時間を示す。また、机間指導で進捗の確認を行い、進みが遅い生徒には個別で声をかけるようにする。また、生徒同士でも声を掛け合えるよう、学び合いを行う。 ・製作の授業終了後は教室での授業になるため、その際に発表や話し合い活動を取り入れていく。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートでは、ペアワークやプレゼンテーションに興味がある生徒が多かった。生徒の興味・関心を高める上でも、主体的で対話的な取組をもっと活発に行わせる指導の工夫が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価をする場面を設け、対話的活動に加わる動機付けを図る。個別発表をする機会を多く設けることで主体性を培う。